

Welcome to マイホーム

今日は事業団職員の私、高田（「たかた」なんですよ（笑））浩志さんの家に皆さんをご招待したいと思います。

玄関を入れば

こんなリビングになります

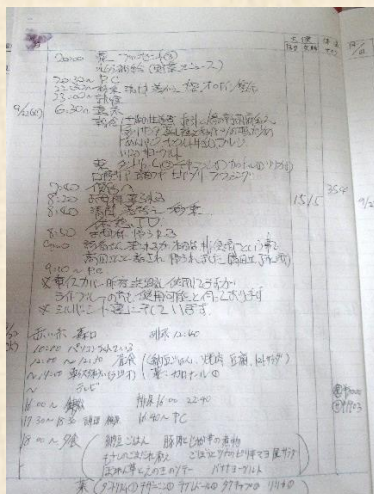


車椅子で通りやすいように段差を
しっかりカバーしています

寝室です。
左側には落ちないようにクッションを完備



さまざまな場所にヘルパーさんなどが確認出来るように工夫されてます



車椅子は2台。「お高いですか？」って聞いたところ笑いながら「はい」と答えていただきました



服の種類もたくさんありました。おしゃれとは思っていましたが、カラフルな色がたくさんあってビックリしました



最後に高田さんに宝物を紹介してくださいとお願いしましたので、高田さんからの紹介文とともにお別れしたいと思います。その宝物は「絵画」です



私とその絵画に出会ったのは20年ぐらい前（事業団に就職する前だったかと？）のことです。「父母の会」が主催で、新しい療護施設建設の資金作りのためのチャリティー個展が開催されていました。でもその時の私は、絵画のことはあまり興味がなくて、ただ親と一緒に見に行きました。絵画を見ていくうちに私は一枚の絵画に心惹かれました。その絵画は海外の都会の風景画で私の好きなブルー系にまとめられており、街全体を薄霧か？街のスモッグのようなガスに包まれていてまるで映画のワンシーンを切り抜いた感じの画風で、私はその絵画がとても欲しくなりましたが、高価だったので親に相談をすると『浩志が欲しいのなら買った。後から少しずつワーク（箕面市立ワークセンターささゆり）の給料で返してくれるなら。それに、療護施設を作るためのチャリティー個展だから良いよ。』と言ってくれたので思い切ってその絵画を買いました。

絵画の代金は、ワークの給料（工賃）で少しずつ母に返金をしていましたが、その数年後に事業団に就職することになり『就職祝いに、絵画のお金は、もういらないよ！』と両親が言ってくれたので、その言葉に甘えることにしました。

後日談ですが、絵画の作品名や作者名とか必要書類等を調えるため、その絵画が手元に届くのに半月ぐらいかかったこと、私の家族はあまり家を飾ることをしてこなかったこと、そして、この数年後に念願だった自立生活をしたこともあり、その絵画が私の目に触れることは数えるぐらいの回数しかありませんでした。今でも私の宝物です。そこで、今さらなのですが、その絵画を写真に撮って、家のパソコンの待ち受け画面にしたら、パソコンを開くといつでも絵画が鑑賞できるかなと考えています。

「心のままに・・・」ほぼ30年の歩み

障害者事業団では、現在12名の障害者職員が色々な職場で働いていますが、ここでは、就職以来リサイクルセンターで勤務を続ける「松内秋弘」さんを紹介します。

松内さんは、昭和44年（1969年）10月生まれの51歳、平成5年（1993年）1月25日に障害者事業団に就職し、社会人として自立生活を目指すため幾つかの通勤寮を経験したのち、平成18年（2006年）10月1日よりグループホームを利用しています。現在のグループホームはとても心地の良い環境で、充実した生活を送れているとのこと。

何にでも興味を持ち、挑戦したい松内さんには、映画鑑賞、コンサート鑑賞、パチンコ、その他数々の趣味がありますが、最も楽しんでいるのは旅行です。

これまでの旅で一番は「パリでエスカルゴを食べ、ディズニーランドで遊んだこと」つぎは「ハワイで遊んだこと！」とのこと。（ハワイのお土産マカダミアナッツ入りチョコは、配る前に半分ほど試食済だったとの情報が・・・）

若い頃は、何度も一人で東京ディズニーランドに出かけ、何度も迷子扱いをされ事業団事務所に「松内様をお預かりしてます」の電話がありました。時には「お金がなくて帰れない」と事業団の職員が迎えに行くという出来事もありました。

旅に出る動機は色々あるようですが、最近はおっぱら「朝ドラなどドラマの舞台」を参考にしながら国内旅行を楽しんでいるそうで、中でも、朝ドラ「マッサン」の舞台「余市」やドラマ「北の国から」の舞台「富良野」には今も強い思い入れがあるそうです。

現在入居しているグループホームには「あいあいサロン」というサークルがあり、これまでサロンでは、ディズニーランド、スペイン村、鈴鹿サーキットなどの旅行を企画し楽しんできたそうです。しかし、今年度は「信楽のタヌキに会いに行く予定がコロナのせいで中止になった」とかなり落ち込んでいます。

「一人旅」も楽しめるようになり、ヘルパーさんがいなくても（段取りは全てグループホームの方を頼っているようですが）慣れたもので、昨年の夏やこの年末年始も「品川プリンスホテル」に滞在しながら東京一人旅を満喫してきたところ。

東京では、大好きな「寅さん」に会いたくて葛飾・柴又の「寅さん記念館」まで足を運ぶなど、様々な舞台となった地域まで出向き、旅を楽しまれています。

普段から、心の赴くままに想定外の事が巻き起こることもありますが、事業団設立当時から働き続けてこられたからこそ、自由に趣味の世界を楽しめていると感じます。

「あれから（ほぼ）30年！」そして、これからも取り敢えず働き、大いに遊び、多くの皆様の手を借り、巻き込み？「思い立ったら・・・」の自由で破天荒な人生を満喫して行かれる姿を同僚として見守っていきたいと思います。

